



# コモンズ30 +しずぎんファンド

〈月次報告書〉



## 基準価額の推移



## ファンドのデータ

(2019年2月28日付)

|       |         |
|-------|---------|
| 基準価額  | 12,029円 |
| 純資産総額 | 611百万円  |

※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述の「コモンズ30+しずぎんファンドの費用について」をご覧ください)。

※当ファンドの信託報酬率は、ファンドの純資産総額の一定の増加により逡減する仕組みとなっており、当レポート作成基準日現在、年率1.242%(消費税込)です。

## 分配実績(1万口あたり、税引前)

|                      |    |                      |    |                      |    |                      |    |
|----------------------|----|----------------------|----|----------------------|----|----------------------|----|
| 第1期<br>(2015年12月18日) | 0円 | 第2期<br>(2016年12月19日) | 0円 | 第3期<br>(2017年12月18日) | 0円 | 第4期<br>(2018年12月18日) | 0円 |
|----------------------|----|----------------------|----|----------------------|----|----------------------|----|

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。  
※収益分配金は委託会社が決定します。分配を行わない場合もあります。

## 基準価額(税引前分配金を再投資したものとして算出)の騰落率

(2019年2月28日付)

| 過去1ヶ月間 | 3ヶ月    | 6ヶ月    | 1年      | 3年     | 設定来    |
|--------|--------|--------|---------|--------|--------|
| 0.63%  | ▲5.45% | ▲9.86% | ▲10.87% | 33.06% | 20.29% |

※「基準価額の騰落率」は、基準日から過去に遡った期間です。

## ポートフォリオの構成比

|                     | 当月末   | 前月末比  |
|---------------------|-------|-------|
| コモンズ30ファンド<br>(マザー) | 91.3% | 0.0%  |
| 静岡銀行株式              | 7.9%  | 0.6%  |
| 現金等・その他             | 0.8%  | ▲0.6% |
| 構成銘柄                | 31社   | 0社    |

## 運用状況(コモンズ30マザーファンドについての記載となります)

### ◎2月のファンド月間リターンとその要因

2月のマザーファンドの月間リターンは、1.10%の上昇、当ファンドの月間リターンは0.63%の上昇となりました。銘柄別の月間リターン上位3銘柄は、「資生堂(+13.48%)」、「カカクコム(+12.45%)」、「シスメックス(+10.78%)」となりました。資生堂は、米中貿易摩擦に対する懸念がやや後退したことが材料視されました。カカクコムは、第3四半期決算(10-12月期)で順調な業績の進捗が確認できたことが好感されました。シスメックスは、第3四半期決算(10-12月期)は前年同期比で減益となったものの、過度な業績悪化懸念は後退したことから株価は上昇に転じました。下位3銘柄は、「クボタ(▲12.34%)」、「クラレ(▲10.59%)」、「味の素(▲10.47%)」となりました。クボタとクラレは、世界経済の減速の影響を受けて2018年12月期通期決算が会社計画に届かなかったことなどが嫌気されました。味の素は、海外食品事業における減損損失計上を受けて2019年3月期の通期予想を引き下げたことから株価は下落しました。

なお、ベビーファンドで直接投資している静岡銀行株式の月間騰落率は▲3.62%の下落でした。

シニア・アナリスト 末山 仁

### ◎運用責任者メッセージ

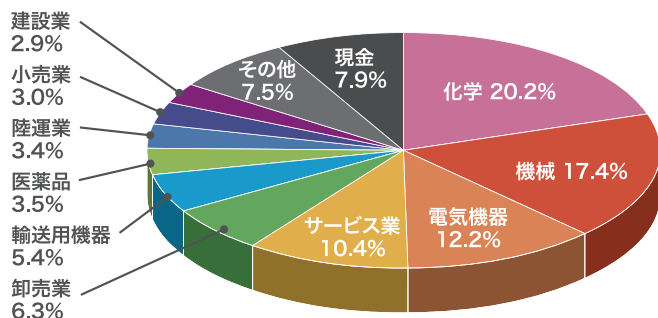
2月の内外金融市場は、1月からの反発局面が継続しました。特に、年初からの米国株、2月の中国株(上海総合指数)の反発は大きなものとなりました。この反発は、米中通商協議の進展が期待されたことによると考えられます。こうした環境下、国内株式市場も先月に続いて2ヵ月連続の上昇となりました。国内企業業績にピークアウト感が出ている中、為替市場でのドル円レートが110円を超えてきたことも株価への支援材料となっています。当ファンドは、市場全体の戻りに比べやや低調な状況となりました。組入銘柄30社中12社の株価が月間騰落率でTOPIX(東証一部株価指数)配当込の2.60%を上回る上昇となりました。値上がり率上位には、資生堂、カカクコム、シスメックスが続きヘルスケアや内需関連が堅調でした。逆に値下がりの大きかった銘柄は、クボタ、クラレ、味の素となり、10-12月期の決算内容が悪かった銘柄が並びました。また、ポートフォリオ全体としては、米中通商協議やブレグジット(英国EU離脱)の行方が不透明であることから現金比率を少し高めた慎重なスタンスでの運用を続けています。引き続き、不確実性の高い市場環境が続くことを想定し、本質的な企業価値への定点観測を丁寧に続けて参ります。ご期待ください。

最高運用責任者 伊井 哲朗

## ● コモンズ30マザーファンドの業種別構成比と未来コンセプト別構成比

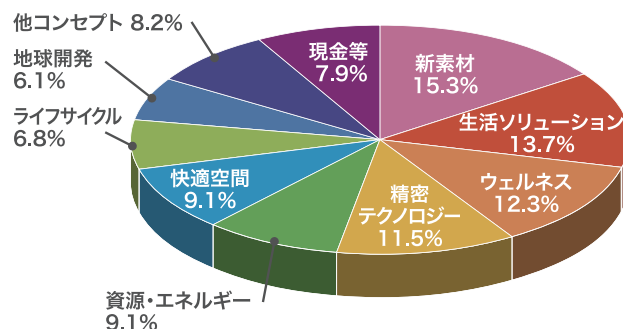
(2019年2月28日付)

### ◎業種別構成比



- 比率は純資産総額を100%として計算しております。
- 比率は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。
- 業種については東証33分類に基づいて記載しております。

### ◎未来コンセプト別構成比



## ● 組入上位10銘柄（静岡銀行株式を除く）

(2019年2月28日付)

| コード  | 銘柄名      | 未来コンセプト   | 概要                                 | 組入比率 |
|------|----------|-----------|------------------------------------|------|
| 4911 | 資生堂      | ウェルネス     | 銀座も、アジアも、美しく                       | 3.7% |
| 4755 | 楽天       | 生活ソリューション | 強烈な成長意欲で、アジアを代表するインターネット企業         | 3.7% |
| 4063 | 信越化学工業   | 新素材       | 戦略的なポジショニングに優れ、素材メーカー随一の収益性        | 3.7% |
| 8113 | ユニ・チャーム  | ライフサイクル   | 世界企業と切磋琢磨し、空白地帯で成長                 | 3.6% |
| 2371 | カカクコム    | 生活ソリューション | インターネットユーザーに「便利」を届け続ける             | 3.6% |
| 4523 | エーザイ     | ウェルネス     | 患者家族まで心を配る徹底したステークホルダー経営           | 3.5% |
| 8035 | 東京エレクトロン | 精密テクノロジー  | 創業時のエネルギーが、脈々と続く「革新」を続ける会社         | 3.5% |
| 9064 | ヤマトHD    | 生活ソリューション | 「クロネコヤマトの宅急便」で親しまれる宅配便業界のトップ       | 3.4% |
| 3407 | 旭化成      | 新素材       | 化学繊維事業から医薬・エレクトロニクス事業へ事業転換を続ける伝統企業 | 3.4% |
| 6367 | ダイキン工業   | 快適空間      | 世界一快適な空気をつくる                       | 3.2% |

◎未来コンセプトとは 当ファンドが独自に行っている業種分類です。以下のように10種類に分類を行っております。  
「資源・エネルギー」「新素材」「精密テクノロジー」「ウェルネス」「生活ソリューション」「社会インフラ」「未来移動体」「快適空間」「地球開発」「ライフサイクル」

## ● 新規組入投資先

なし

## ● 今月のピックアップ！

2月は日立製作所の株価が▲2.29%となりました。米中貿易摩擦やブレグジットの動向など、外部環境の不透明要因が嫌気され上値が重い展開となりました。2月1日発表の第3四半期決算では、好調な情報通信事業やこれまで苦戦してきたオートモーティブ事業の収益性改善が確認されるなど概ね良好な決算となり、第3四半期累計の連結調整後営業利益は過去最高を更新しました。2018年度通期でも過去最高を達成する見通しです。注力分野のインフラ事業において、2018年12月にパワーグリッド（電力送配電）事業の買収、2019年1月には風力発電事業強化を目的とした欧州企業との業務提携拡大、英国原子力発電所建設プロジェクトの凍結、など矢継ぎ早に事業の集中と選択を進めています。IoTプラットフォームである「Lumada」事業も順調に進展しており、日立の他社にない強みである「IT×OT (Operational Technology) ×プロダクト」の強化が順調に進捗しています。

シニア・アナリスト 末山 仁

## ● 企業との対話

### コモンズ30塾統合レポートワークショップ～投資先企業デンソーをお迎えして～

2月4日(月)、コモンズ30ファンド投資先企業デンソーをお招きし、統合レポートワークショップを開催いたしました。

統合報告書2018はこちら <https://www.denso.com/jp/ja/investors/library/annual-report/>  
デンソーとの統合レポートワークショップは2017年11月に名古屋で開催して以来、2回目です。

この日は、株式会社デンソーの杉浦グローバル戦略部長はじめ、グローバル戦略部から6名で参加いただきコモンズ流対話に臨んでいただきました。1949年に設立されたデンソーは、2019年に設立70周年を迎えられます。2017年度には売上が5兆円を超える、グローバル自動車部品メーカーにまで成長されました。一方、自動車業界は今、100年に1度の大変革期に直面しており、まさにパラダイムシフトが起きており、自動車、モビリティ社会において、電動化、自動運転、コネクティッド、シェアリングといった、今までに無かった新たな動きが、物凄いスピードで進行しています。その中で、会社として何を大事にして事業に取り組んでいくべきかを考え、「地球に、社会に、すべての人に、笑顔広がる未来を届けたい。」という長期ビジョンを策定されました。

杉浦さまのお話はこちらでご紹介しております。 <https://park.common30.jp/2019/02/1.html>

お話の後、早速グループに分かれてのワークショップです。このワークショップでは、Q1.企業理念の内容が具体的か、視覚的にもわかりやすいか。Q2.企業の代表者による投資家へのメッセージについて、全体の流れやわかりやすさはどうか、といった観点でチェックシートを使いながら話し合いが進みます。今回多くの話題に上ったのが、有馬社長のトップメッセージにあった「社会のみなさまに心の底から共感していただける会社となるために、デンソーは生まれ変わります。」という部分でした。「生まれ変わる」という言葉に、時代の変化の中で更なる飛躍に向けて力強く歩む決意が窺われます。ワークショップでは、デンソーの皆さまにも加わっていただき、こうしたトップメッセージについて、全体の構成について、役員の写真、といった細部にいたるまで様々な観点から意見交換が行われました。コモンズ流対話とは、投資先企業の「見える化」につながり、そしてお互いの「気づき」が価値共創につながるというものです。ご参加頂いた皆さまから頂戴した感想でも、「プレゼンされたデンソーのグローバル戦略部長は素晴らしかったと思います。謙虚で人の話に真剣に耳を傾け、慎重に言葉を選びながらも誠実に語られ印象的でした。デンソーのDNAが垣間見れました。」といったものや、「今後の日本・世界を背負って立つ企業になってください。次のレポート楽しみにしています。」といった今後への期待の声が多く寄せられました。

マーケティング部 福本 美帆

## ● ちょっといい話

### 【優れた経営者に代わりに働いてもらおう】

昨年、日本の100歳以上人口が前年比2,014人増加し6万9,785人(厚生労働省調べ)になりました。48年連続で過去最高を更新し、20年前との比較では約7倍に。日本は、この100歳以上人口で米国の7万2千人に次ぎ世界第2位ですが、2050年には53万人を超えるとの予想も出ています。100歳で同窓会も出来る時代に突入するようです。

人生100年時代と言われ始めたここ数年、投資先企業からは高齢者の高額消費にブレーキがかかり始めているとの話を伺います。人生、長くなるから節約せざるを得ない…しかし、これでは寂しいですね。では、どうしたらいいのでしょうか。一つは、退職時期を遅らせる。健康寿命が延びることで定年も延びていくと思いますので70歳くらいまでは働く時代が来るのではないのでしょうか。それでも70歳までフルタイムは厳しいでしょうから、65歳くらいからは間引いた勤務であとは旅行や趣味の時間に使いたいですよね。

さて、寿命が伸びる中で自らの働く時間が徐々に短くなる訳ですから、その後はどうしたらいいのでしょうか。もう一つの解決方法は、優れた稼げる経営者に自分の代わりに働いてもらって、一定の分け前をもらい続ける。そんな夢のようなことが出来るのでしょうか。はい、それが株式投資であり、投資の本質です。皆さんが、その事業や経営者の人柄に共感し、株式投資をするということは、その経営者、会社に頑張って稼いでもらい、その分け前を配当や値上がり益で享受することを意味します。自動車のスズキに投資をすることで、鈴木修会長にまだまだ頑張って仕事をしてもらう、ソフトバンクグループに投資をして孫会長兼社長にどんどん稼いでもらう、あるいは海を越えてアップルに投資をしてティム・クックCEOに世界を変えてもらう。このように、自らが歳を重ねていくとき、代わりに稀代の経営者に投資をしてその分け前をもらう。株価の上下に一喜一憂するのではなく、そんな発想こそが、投資を面白くするはずですよ。

当ファンドの投資先には、そんな企業が沢山、組み入れられていると自負しています。



コモンズ投信株式会社  
代表取締役社長 伊井 哲朗

## ● コモンズ30+しずぎんファンドのリスクについて

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資するため、その基準価額は変動します。したがって、お客さま（受益者）の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。委託会社の運用により生じるこうした基準価額の変動による損益は、すべてお客さま（受益者）に帰属します。なお、投資信託は預貯金と異なります。お客さま（受益者）には、当ファンドの内容・リスクを十分にご理解のうえ、ご投資の判断をしていただくよう、よろしくお願い申し上げます。なお、下記のリスクはすべてのリスクを網羅しているわけではありませので、ご注意ください。

|                        |                                                                                                                                                                           |
|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 価格変動リスク                | 当ファンドは実質的に国内外の株式を組入れるため、株価変動の影響を大きく受けます。一般に株式の価格は、個々の企業の活動や業績、国内および国外の経済・政治情勢などの影響を受け変動します。株式の価格が下落した場合には基準価額は下落し、投資元本を割込むことがあります。                                        |
| 流動性リスク                 | 有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引が行えない、または取引が不可能となる場合が生じることを流動性リスクといいます。この流動性リスクの存在により、組入銘柄を期待する価格で売却あるいは取得できない可能性があります。この場合、不測の損失を被るリスクがあります。 |
| 為替変動リスクおよび<br>カントリーリスク | 外貨建資産を組入れた場合、当該通貨と円との為替変動の影響を受け、損失を生ずることがあります。また、当該国・地域の政治・経済情勢や株式を発行している企業の業績、市場の需給等、さまざまな要因を反映して、当ファンドの基準価額が大きく変動するリスクがあります。                                            |

## ● その他の留意点

収益分配金は、預貯金の利息とは異なります。収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかさった場合も同様です。収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産額の減少、基準価額の下落要因になります。

## ● 販売会社一覧

| 販売会社名称        |          | 登録番号                | 日本証券業協会 | 一般社団法人<br>金融先物取引業協会 | 一般社団法人<br>日本投資顧問業協会 | 日本商品先物取引協会 |
|---------------|----------|---------------------|---------|---------------------|---------------------|------------|
| 株式会社静岡銀行      | 登録金融機関   | 東海財務局長<br>(登金)第5号   | ○       | ○                   |                     |            |
| マネックス証券株式会社   | 金融商品取引業者 | 関東財務局長<br>(金商)第165号 | ○       | ○                   | ○                   |            |
| 静銀ディーエム証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 東海財務局長<br>(金商)第10号  | ○       |                     |                     |            |

## ● コモンズ30+しずぎんファンドの費用について

|                    |                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 購入時手数料             | 販売会社が、別途定める購入申込手数料を申し受ける場合があります。なお、販売会社における購入申込手数料率は3.24%（消費税込）が上限となっております。                                                                                                                                      |
| 換金手数料              | ありません。                                                                                                                                                                                                           |
| 運用管理費<br>（信託報酬）    | ファンドの純資産総額に年1.242%（消費税込）を上限とした率を乗じて得た額とします。なお、基準価額は、信託報酬控除後のものです。信託報酬は、純資産総額の一定の増加により逓減する仕組みになっています。                                                                                                             |
| 信託財産留保額            | ありません。                                                                                                                                                                                                           |
| その他の費用<br>・<br>手数料 | 当ファンドに組み入れる有価証券等を売買する際の売買委託手数料およびこれにかかる消費税等相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。また、目論見書・運用報告書等作成費用、監査費用、信託事務に要する諸費用等として、純資産総額の0.108%（消費税込）を上限として投資信託財産より控除されます。上記の手数料（費用）等の合計額については、運用状況、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。 |

## ● お申込みメモ

|             |                                                                                                                                                               |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 商品分類        | 追加型投信/内外/株式                                                                                                                                                   |
| 信託設定日       | 2014年12月29日                                                                                                                                                   |
| 信託期間        | 無期限（ただし、ファンドの残存口数が10億口を下回った場合等には信託期間の途中で信託を終了させることがあります。）                                                                                                     |
| 分配方針等       | 毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。当ファンドは分配金再投資専用です。よって、分配金は税金が差し引かれた後、自動的に再投資されます。なお、収益の分配に充てなかった利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。 |
| 購入単位        | 販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。                                                                                                                            |
| 購入価額        | 購入申込受付日の翌営業日の基準価額                                                                                                                                             |
| 換金単位        | 販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。                                                                                                                            |
| 換金価額        | 換金申込日の翌営業日の基準価額                                                                                                                                               |
| 換金代金の支払い開始日 | 換金申込日から起算して5営業日目                                                                                                                                              |
| 申込締切時間      | 購入・換金ともに原則毎営業日の午後3時までです。<br>午後3時を過ぎてのお申込は、翌営業日のお申込みとして取扱います。                                                                                                  |

○当資料は金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。○投資信託は設定・運用を投資信託会社が行う商品です。

◆本資料は、コモンズ投信が投資家の皆さまに情報提供を行なう目的で作成したものです。◆このレポートは、信頼性が高いと判断された情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通し等は作成日時点のものであり、将来の株価等の動きやファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。◆投資信託の取得を希望される方は、コモンズ投信または委託会社が指定した販売会社でお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）を必ずご確認くださいのうえ、ご自身の判断でお申込下さい。

金融商品取引業者  
関東財務局長(金商)第2061号  
加入協会 一般社団法人投資信託協会  
**コモンズ投信株式会社**  
〒102-0093  
東京都千代田区平河町2-4-5 平河町Kビル5階

委託会社お問い合わせ先

■ コールセンター（受付時間／平日 9時～17時）

**03-3221-8730**

■ ウェブサイト

**<https://www.common30.jp/>**